

第1節 インターネット利用者の実像と利用状況

低価格の商用ネットワークサービスプロバイダーの登場や、マスコミの注目度の高さ、あるいはネットワーク利用に適したハードやソフトウェアの充実などもあって、95年の1年間でインターネットの利用者は急増したといわれている。

だが、そうした人たちの実態や利用状況については、一元的に調査することが難しく、正確に把握できていないのが実状である。

ここでは95年10月にサイバースペース・ジャパン（CSJ）がオンライン上で行ったアンケート調査と、95年12月にインプレスが実施した誌上アンケート調査を中心に、日本におけるインターネット利用者の現状を分析してみたい。

1.調査概要

地域範囲／いずれも全国

属性範囲／ CSJ：同社ディレクトリー（<http://www.csj.co.jp/>）の利用者
インプレス：「インターネットマガジン」の購読者

選定方法／いずれも無作為抽出

サンプル／ CSJ：2,560人

インプレス：1,281人（うちインターネット既接続者：950人、未接続者：324人、無回答：7人、図1参照）

調査期間／ CSJ：95年10月24日～同年11月2日

インプレス：95年12月1日～96年1月29日

調査方法／ CSJ：同社のWWWにアクセスした人たちへのオンラインアンケート
インプレス：誌上アンケート（郵送・FAX）

2.利用歴

調査対象となった人たちの利用歴は図2（CSJ調査。N=2,492）、図3のとおり（インプレス調査：既接続者のみ対象。N=950）。図2では「12ヵ月」までが86.7%、図3では「1年未満」までが57%を占めており、この1年間で利用者が急増したことを数字の上からも証明している。

興味深いのは、図2のグラフ上に「7～12ヵ月」と「2ヵ月」をピークとする2つの山がある点だ。CSJが調査を実施した時期から逆算すると、春先と秋口にあたる。春先といえば低料金を“目玉”とする2次のプロバイダーが登場したり、1次プロバイダーの中にも利用料金を抑えたメニューで個人市場を開拓しようとする動きが活発になってきた時期である。

この頃にインターネットを始めた人たちが最初のピークとなり、それに刺激された人たちが秋口のピークになったとも想像される。いずれにしても利用料金が下がったことが、利用者の増加に寄与したことは間違いないだろう。

(I)：インプレス調査を基にしたグラフ
(C)：CSJ調査を基にしたグラフ

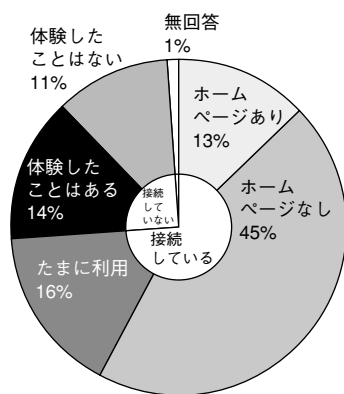


図1 インターネットの利用実態 (I)

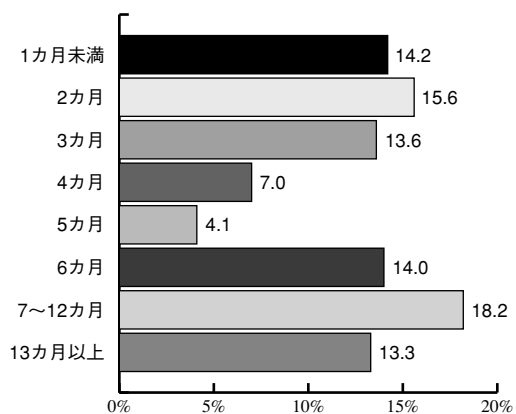


図2 インターネットの利用歴 (C)

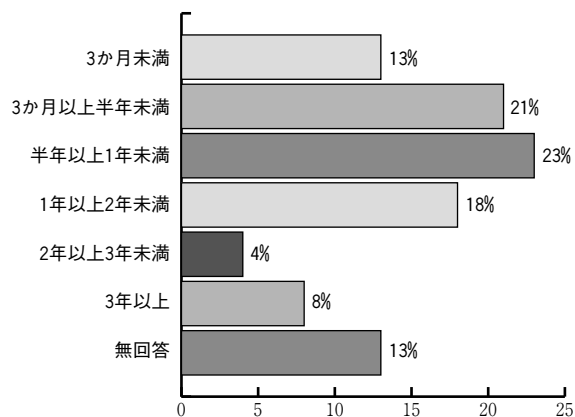


図3 インターネットの利用歴 (I)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp